

こども部会 令和5年度活動報告書

	こども部会(全体及びトピックス)
<p>こども部会では協議の活性化のためテーマ別にグループ協議を行っている。 令和5年度は「地域連携G」「医療的ケア児G」として協議を行った。各グループの協議内容は別紙の通りである。</p> <p>定例の部会以外には以下の取り組みを行った。</p> <p>《児童フォーラム(みやっこ会議兼特別支援教育ネットワーク会議)》 児童フォーラムを通じて、医療的ケア児が地域の小中学校で、みんなと一緒に成長する姿を共有し、インクルーシブ教育の大切を発信する。</p> <p>【日時】 7月26日(水) 13:30～16:30 【場所】 西宮市勤労会館 大ホール 【参加者】 245名 / 一般:65名 教職員:180名 【内容】 〈講話〉 社会福祉法人 養徳会 医療福祉センターきずな 兵庫県医療的ケア児支援センター院長兼センター長 常石 秀市氏 《テーマ》 医療的ケアを必要とする子どもの社会参加と教育！</p> <p>〈他市取組み紹介〉学校園における医療的ケアが必要な子どもへの教育と支援 豊中市教育委員会</p> <p>〈パネルディスカッション〉 《テーマ》 西宮で「医療的ケアが必要でも当たり前」に教育を受け、遊び、生活する」こどもまんなか社会を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助言者: 兵庫県医療的ケア児支援センター院長兼センター長 常石 秀市氏 ・先行地域より: 豊中市教育委員会 ・学校園: 西宮市立春風小学校先生 ・保育所: ニコニコ桜保育園先生 ・子どもの地域での支援活動者: NPO法人たねとしく 大和 陽子氏 ・司会: 東播磨圏域医療的ケア児等コーディネーター 濱口 直哉氏 <p>《西宮市 子ども・子育て支援プラン について》 西宮市の子ども・子育て支援プラン作成にあたって、こども部会として投げかけた課題について共有する。</p> <p>《西宮でこどもまんなか社会を考える研究会》 ～みんないっしょやで！～ 医療的ケア児等コーディネーターの役割を考える</p> <p>医療的ケアが必要な子どもたちが保育所や幼稚園、小中学校、地域のなかで他の子どもたちと一緒に成長できる環境を整え、一人の子どもとしての「育ち」を支援するため医療、教育、福祉、市行政が連携強化を図る。 そのために医療的ケアが必要とする子どもについて、各分野の多くの関係者に正しく理解してもらいながら、医療的ケアが必要とする子どもの現状や課題、また医療、教育、福祉の連携課題を共有する。</p>	<p style="text-align: center;">こども部会(全体及びトピックス)</p>
<p>取り組んだ内容</p>	

	<p>【日時】 令和6年2月23日(金) 13:00～16:30 【場所】 西宮市勤労会館 大ホール 【参加者】 83名 交流会:32名 【内容】 西宮で医療的ケアが必要でも当たり前前に教育を受け、遊び、生活できる」子どもまんなか社会を考える</p> <p>〈講話〉 西宮市子ども家庭庁 支援局障害児支援課 課長補佐 鈴木久也氏 《テーマ》 子ども基本法から考える「子どもまんなか社会と支援が必要な子どもたち」 支援が必要な子どもたちが「子どもまんなか社会」で当たり前前に生きるための支援と課題について学ぶ。</p> <p>〈講話〉 姫路聖マリア病院 小児科 重度障害総合支援センタールルドセンター長 宮田広善氏 《テーマ》 共に学び合い、育ち合う社会を目指し「医療的ケア児支援法へ込めた思い」 医療的ケア児が地域のなかで普通に学び、育つ環境をつくっていくために必要な体制づくりと医療的ケア児等コーディネーターの役割を学ぶ。</p> <p>〈座談会〉 西宮で「医療的ケアが必要でも当たり前前に教育を受け、遊び、生活する」子どもまんなか社会を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度障害総合支援センタールルド センター長 宮田広善氏 ・子ども家庭庁 支援局障害児支援課 課長補佐 鈴木久也氏 ・西宮市肢体不自由児者父母の会 ・西宮市役所生活支援部長 ・西宮市地域自立支援協議会子ども部会 部会長
<p>達成できたこと・効果</p>	<p>子ども部会として、「障害のある子」も「医療的ケアが必用な子」もどんな子どもも、まず「子ども」として認められるべきであると主張してきた。 令和5年度は医療的ケアが必要な子どもが、地域の中で生活している様子の動画を作成して広く学校・園に伝える機会を持った。 また、障害のある子が当たり前前に地域で生活する、先進的な他市の取り組みを伝えることで行政機関に対して訴える機会となった。</p> <p>各グループの協議内容は別紙の通りである。</p>
<p>残された課題</p>	<p>部会の形が変化する経過の中で、部会員が積極的に参加できる形を模索している。今後は部会員が自主的に課題協議できる場づくりを目指していく。</p>
<p>市への提言</p>	<p>現在、子ども部会には教育、保育、福祉、保健などの様々な行政部署をはじめ、福祉事業所、保育園、幼稚園、学校、保護者等が参加し、課題を共有し、考えを出し合っている。 これだけ幅広い分野の担当者が参加することは貴重な場であり、今後も生かしていきたい。</p> <p>しかしながら、現場の担当者の間にも分野の壁・組織の壁があり、この幅広い分野の100%の力を活かしきれていない現状がある。</p> <p>「子ども」をとりまく社会問題は複合的な要因により起こり、「障害」はその一要因に過ぎない。(医ケア、ひきこもり、ヤングケア、障害児施設退所など) そのため、「障害児」を「子ども」から分断することなく、障害を持っている子の問題を「子ども」の問題と捉えることを、西宮市が率先して実行していただきたい。 福祉分野の問題、教育の問題と片付けることなく重層的・包括的な支援をお願いしたい。 子ども家庭庁にならない市の組織を横断した「子ども」まんなかの視点で政策を考えていただきたい。</p>

こども部会 令和5年度活動報告書

グループ名	地域連携グループ
協議内容	<p>地域イベント等への参加を契機に地域の居場所運営団体等との接点を作り、居場所活動の状況についてさらに学ぶことを通じ、居場所活動との連携を図る。</p>
取り組んだ内容	<p>令和5年度は、対面での定例会開催を行った。 協議内容は、昨年度に引き続いて「こどもの居場所づくり」と「グループワーク」を中心に行った。</p> <p>《地域連携グループの活動》</p> <p>●こどもの居場所づくり 資源の掘り起こしや開発を目的とし、西宮市南部地域を各圏域ごとに担当を決め、地域イベント等への参加を通じ、居場所活動との連携を図った。また、活動を行う中でこどもが安心して集える居場所作りや、地域へ根付かせる取り組みを考える必要があることから、こどもの居場所の情報整理と連動して行った。 具体的には、地域のイベントに参加し、パネルシアター「プレーメンの音楽隊」の上演を通してこども部会の広報啓発を行い、参加団体との関係づくりを目指した。</p> <p>*今年度参加したイベント・活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月3日(月)13:30~15:30 大社公民館「公民館であ〜そぼっ」 ・令和5年11月5日(日)10:00~15:00 南甲子園地区コミュニティセンター「ルンルン秋めぐり」 ・令和6年3月3日(日)12:00~12:30 西宮北口コープファミリーフェスタ ・令和6年3月27日(水)14:00~14:30 中央図書館 春休みイベント <p>*パネルシアターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアター普及について、地域の身近な人にパネルシアターの担い手になってもらいたい。 (県立高校で保育士や教師を目指す生徒さんや演劇部、防災や地域ボランティアを行っているクラブの生徒さんにお声がけしていく案が出ている) ・市内の学校園や私立幼稚園連合会を通じて広報する案が出ている <p>●グループワーク</p>
達成できたこと・効果	<p>西宮市南部の各圏域(中央・鳴尾・甲東・瓦木)の社会資源を整理し、情報を集めることで地域の現状を知ることができた。また、実際にこどもの居場所を訪問し、話を聞くことで新たな課題があることを知った。こども部会全体で課題を共有し、考える機会となった。</p>
残された課題	<p>こども部会地域連携グループで活動してきた理念を継承し、今後の部会活動につなげていく。</p>
市への提言	<p>こどもの居場所づくりや障害理解・啓発を行う中でこどものあるべき姿に気付かされた。こども同士の中では「障害」や「違い」は無く、成長の過程で「大人の偏見」が植え付けられているように感じる。 文教都市を謳う西宮市が率先して「こども」の捉え方を提唱していただきたい。 障害があろうが、まずひとりのこどもとして捉えていただくことを願います。</p>

こども部会 令和5年度活動報告書	
グループ名	医療的ケア児グループ
協議内容	医療的ケアが必要な子どもが地域で暮らす上での現状と課題
取り組んだ内容	<p>●医療的ケア児の紹介動画視聴アンケートの集約と回答</p> <p>●医療的ケア児に関する啓発活動</p> <p>これまで、市の医療的ケア児を対象としたアンケート（平成30年7月～9月）を実施した経過がある。その結果を踏まえて、以下の通り実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談先を分かりやすくするためのガイドブックの作成 2. 就学前の居場所の充実を目的とし、保育所での医療的ケア児の受け入れを広げていくための活動を行った。 具体的には、実際に幼稚園・保育所で過ごす医療的ケア児の紹介動画を作成し、公立私立の幼稚園・保育所への視聴依頼を行った。今年度は、その動画についてのアンケートを集約し、回答を作製した。内容としては、ハード面の補助や相談先、日々の関わりについての相談先、園内や他機関との連携について、他児との関りについて等。 3. 「医療的ケアを必要とする子どもの社会参加と教育」というテーマで児童フォーラムを開催した。 内容は小学校で過ごす医療的ケア児の動画視聴、兵庫県医療的ケア児支援センター長常石先生の講演、インクルーシブ教育を実践し続けている豊中市教育委員会からの現状報告、また前述の登壇者と地域のこどもの支援者、実際に医療的ケア児が過ごす保育所・小学校の先生方を交えたパネルディスカッションを行い、医療的ケア児が地域で生きることについての実情を知り、その意味を考える機会とした。 <p>●医療的ケア児等コーディネーターの活用</p> <p>「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」施行にあたり、兵庫県が「医療的ケア児等支援者（コーディネーター）養成研修」を数回実施している。西宮市にも十数名のコーディネーター研修修了者がいるが、全く活用されていない現状がある。</p> <p>そのため、5月に三田市医療的ケア児等支援連絡会を視察し、コーディネーターの役割や、連絡会・協議体のあり方等を協議してきた。</p> <p>また、連絡会・協議会への第一歩として、コーディネーター修了者を中心に呼びかけ、2月に『西宮でこどもまんなか社会を考える研究会』を開催した。</p> <p>内容は、こども家庭庁支援局障害児支援課の鈴木久也課長補佐、重度障害総合支援センタールルドの宮田広善センター長の講演・座談会、終了後に医療的ケア児等コーディネーターがつながるための交流会を行った。</p>
達成できたこと・効果	動画を通じた啓発、児童フォーラム、「こどもまんなか社会を考える研究会」を通して、一貫して医療的ケアがあってもなくても、障害があってもなくても、まず一人のこどもであることを伝え続けた。
残された課題	医療的ケア児等コーディネーター、医療的ケア児について協議する協議会や医療的ケア児等コーディネーターの連絡会の設置も望まれる。 協議会は行政・地域・支援者とも障害分野に限らない集まりになり、一つ一つの課題に向き合い、協議され、答えを出していける協議体にしていかなければならない。 連絡会は市内のコーディネーターの横のつながりを作りながら、スキルアップし、医療的ケア児とその家族が安心して相談・生活できることを目指していく。 今後学校・保育所の医療的ケア児の受け入れが増えるにつれ、看護師不足についてさらに加速する恐れがあり、さらに協議する必要がある。
市への提言	以下、市への提言とする ・医療的ケア児等コーディネーターを設置すること。 ・医療的ケア児に関する協議会の立ち上げ、運営と医療的ケア児等コーディネーター連絡会のバックアップをおこなうこと。 ・協議会の中では、特に学校、保育所の看護師不足と医療機関との連携について一体的に協議すること。 ・看護師不足については学校、保育所の看護師の雇用や所属の問題等多岐にわたり、継続している課題であるため、豊中市など他市を参考にしながら、縦割りではなく市全体として取り組むこと。

令和5年度 みんなの部会年間活動報告書

部会のテーマ	障害当事者およびその家族および支援者が集う会として、当事者や家族の思いが具現化される会を目指す。また、協議会の各部会、連絡会と協力し合い、地域課題の提案、社会資源の開発等が促進するための核となる役割を目指すことを目的とする。
協議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな障害のことを知る 2 障害者を取り巻く環境を見直してみる 3 障害者を取り巻く環境の改善を考える 4 地域啓発のイベントを実施する 5 その他 <p style="text-align: center;">※下記の各内容は同番号でそろえています。</p>
取組んだ内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 参加者の自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・定例会の冒頭で1～2名の参加者から自分のことについて話してもらう。 2 障害者を取りまく環境（バリアフリー）を見直してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー調査の具体的企画（全体で意見交換） ・「みんなのトイレ」のみんなの部会モデルを考える（全体で意見交換） ・バリアフリー調査に向けて、障害による便利な点、反対に不便になってしまう点について（グループワーク） 3 障害者を取りまく環境の改善を考える <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市、兵庫県のバリアフリーを唱える前に総合福祉センターはどうなのかを考える（全体で意見交換） ・総合福祉センターのバリアフリーを調べるためのチェック項目の検討 （全体で意見交換） ・総合福祉センターのバリアフリー調査（4班に分かれて実施） 4 地域啓発のイベントを実施する <ul style="list-style-type: none"> ・3月10日の「わいわいごちゃまぜひろば」で2階研修室①②を使用してみんなの部会で啓発のプログラムを実施する内容を検討した。 ○わいわい手話交流広場（L I Cが協力開催） ○障害のある人と腕相撲をしよう・・・（参加賞あり） ○とろみがついた飲み物を飲んでみよう（青葉園が物品の協力） ○障害当事者、介助者体験（アビリティーズ・ケアネット協力） 電動車いす体験、視力障害者体験など 全体で受け持ちを決めた。 ・3月10日 「わいわいごちゃまぜひろば」上記の内容で部会員と事務局を中心に実施。 ※13時から16時の間でおよそ100名以上参加 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉課からの依頼 「小中学校 福祉作品コンクールの審査」

<p>達成できたこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会員の障害であったり、障害がある人の親であったりする人が自己紹介をすることで少しずつであるが、他の障害のことを知ることはできている。 2 障害の違い、その人その人の使い勝手などについて、トイレなどについて話合うことで一人一人ニーズが違うことへの気づきがあった。 平均的にどのような障害の人でも使えるように環境を整えることの難しさを気づくことができた。 3 総合福祉センターだけでなくさまざまな公共施設でバリア対策について困っていることがそれぞれにあることを聞いた。 例：点字盤までのブロックがないなど 4 「わいわいごちゃまぜひろば」での手話・福祉機器・障害者と介助者・とろみ飲料の体験に参加した人から『知らなかったことが分かった』『障害がある人の大変さの一部だろうけど知ることができた』などの感想をいただいた。
<p>残された課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会に参加する人がある程度決まってきた。更に参加者が増えて、障害の種別も増えてほしい。 2 差別解消法の改定もあり、福祉センターのバリアフリーを考えたことから、障害によって求めるものが異なることについて理解を深めたい。 3 公共の施設や道路、鉄道など一つずつ、障害者にとって不便になっている箇所の改善を訴えていきたい。 4 今回は福祉センターでの啓発であったが、もっと一般の市民がくる場所での啓発を考えたい。
<p>市への提言</p>	<p>○市役所・公民館・福祉センター等のトイレをどんな障害があっても使えるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大人用のベッドを設置してください。 ・オムツ交換や着替えなどでベッドがないとトイレができない方がいる。現状では市役所、公民館、福祉センターのトイレに大人用のベッドがない。 ●各トイレにどのような設備があるかトイレに入る前にわかるようにしてください。 ・ベッド・オストメイト・手すりの位置など障害の状況によって必要とするトイレの設備は変わります。障害によって必要な設備が異なります。トイレ待ちをしていて、いざ中に入ってみたら自分に必要な設備がないということがよくあります。案内図を作る・内部の写真をトイレの前に掲示する・総合案内やホームページなどで案内できるようにするなどして、円滑に自分に合うトイレにアクセスできるようにしてください。 ●トイレを新設する際には障害当事者の意見を聞いてください。
<p>来年度に向けて</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 参加者の増員を図り、さまざまな障害種別がいる会にしたい。そのための広報について有効な方法を考える。 2 市内のバリアフリーについて少しずつでも改善の成果があがる方法を考えたい。 3 前年度までに積み残している例えば教育のインクルーシブについて、災害時の避難や避難所のことなどについても話し合いをしていく。

しごと部会 令和5年度活動報告書

部会のテーマ 目的	「障害のある人・ない人の『働く』について」検討や意見交換を行い、障害のある人のニーズを中心とした地域課題を協議し課題改善に取り組み、それらの方策について検討することを目的とする。
協議内容	<p>【市内事業所ガイドブック2023年度版の作成】</p> <p>【西宮市福祉事業所合同説明会2023の開催】</p> <p>【研修会】</p> <p>【グループワークの実施】</p>
取り組んだ 内容	<p>【市内事業所ガイドブック2023年度版の作成】</p> <p>・しごと部会では、「働きたいと思っている人に情報を届けるため」2008年度より事業所ガイドブックを作成してきた。2023年度版は1000部作成した。今年度はガイドブック作成のあり方、部数、作成者、費用対効果等を見直し、事務局の中にガイドブック作成のチームを設けた。“作成方法のシステム化”を構築すべく、必要な事を洗い出したうえで利用されるかたの目線で掲載内容を見直し、Googleフォームを活用してカラー写真を掲載した紙面づくりやQRコードからWebサイトに移行して地図が確認できる等、必要な情報が得られるようになった。2024年度版は1600部作成した。今年度の取り組みが継承されれば、今後のガイドブック作成にかかる作業や負担は大きく軽減される見込みである。</p> <p>【西宮市福祉事業所合同説明会2023の開催】</p> <p>・日時:2023年6月17日(日)10:00～15:00 会場:西宮市総合福祉センター</p> <p>・来場者は約130名で、昨年度より増えたがコロナ禍以前まで戻ってきていない。福祉サービスの事業種別ごとの説明ブースを設け、様々な事業所利用希望に応える方法の模索となった。来場者が、特別支援校の在校生の2年生の保護者が多く、3年次の実習に向けた情報収集を目的に来場していることがアンケートから推察でき、結果からは先を見据えた進路選択相談できる所を求める声があった。</p> <p>【研修会】</p> <p>・「あいサポート運動について」 日時:9/21(木)16:00～17:30</p> <p>①メッセージの講義(45分)(メインストリーム協会:田村さん、茂上さん)</p> <p>②グループワーク(15分):「今日の講義を聞いて感じたこと」5人程度でフリートーク</p> <p>・『発達障害のある人の就労支援～障害特性の理解と医療との連携～』 講師 精神科医 西川 瑞穂 先生 日時:2/8(木)16:00～17:30 会場:西宮市勤労会館第8会議室</p> <p>【グループワークの実施】</p> <p>①就労支援について</p> <p>【趣旨】</p> <p>就労支援を根幹として、幅広くさまざまな立場からの疑問や困りごとの共有・解決方法を出していき、自分たちで何ができるか、できない部分は何かを議論し、必要に応じて提言へと内容を深める。 「さまざまな働く」をテーマに参加者がワーキングへ積極的に参画して「まなび、考え、検証」し、本人にとって本人にとって必要な制度、活用できる資源を創出する。 今年度はテーマを限定せずに各事業所の悩みごとの共有、その悩みごとに対する解決方法やアイデアの検討、解決の難しい課題については、整理をした上で市への提言に挙げていく。</p> <p>【内容】</p> <p>・昨年度から持ち越しの課題:①短時間雇用のあり方、②福祉サービスと雇用(就労)の併用、③利用料の自己負担について</p> <p>・協議内容:本人目線での就労につながるまでの求職活動と支援者の就労支援スキル、就労・作業支援で苦心している点、ハローワークの活用の仕方・連携、コロナ過での就労支援の変化、事例検討。</p> <p>【残された課題】</p> <p>前年度の持ち越し課題についても検討予定だったが、深掘りするまで至らなかった。どのようなものがあればいいかという案やその中から現実的なもの、まだ難しそうなものなどの整理をする作業も必要だと感じる。昨年度の協議の幅を広げる目的で協議したが、幅が広いがゆえに特定のものに対しての解決策や資源の創出までには至らなかった。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>前年度に引き続き、各事業所が「就労者を出す」ことを意識しての意見交換・情報共有・協議をして、必要に応じて提言へもつなげていきたい。また、支援力向上と併せて社会制度を知る(令和7年施行予定の「就労選択支援」等)学びの機会も設け、「本人中心支援」を実行できる事業所・人材育成の場にしていきたい。</p>

しごと部会 令和5年度活動報告書

<p>部会のテーマ 目的</p>	<p>「障害のある人・ない人の『働く』について」検討や意見交換を行い、障害のある人のニーズを中心とした地域課題を協議し課題改善に取り組み、それらの方策について検討することを目的とする。</p>
<p>取り組んだ 内容</p>	<p>②重度の方の働き方について 【趣旨】 「どんな重度の方でも自分らしく働きたい」にどんな方法で応えていくのか、どのような工夫や支援が必要なのか、どうやって困りごとを解決していくのか、事業所の壁を越え一緒に悩み、考え、意見交換している。他のワーキンググループとも連携しながら、西宮市が誰にとっても暮らしやすい街になる事を目指している。 昨年度は、希望する事業所に「送迎」がなく、やむを得ず違う事業所と契約したものの、ミスマッチングがおき通所できなくなったり、送迎に時間がとられ、支援時間が減ってしまうなどの「送迎の問題」や重度の方への仕事の提供の仕方などについて話し合った。今年度も引き続き、「送迎の問題」では、送迎があってもなくても、本人が通いたい場所に通えるような仕組みを考えたり、事例をあげ、より具体的に本人や事業所の困りごとを深掘りし、提言につなげていきたい。どんな重度の方でも自分で選択し、自分らしく働ける西宮市を実現出来るよう進めていきたい。 【内容】 ・7～12月は、グループワークを実施。 ・学校時代は、スクールバスが7.5割、自力通学が2割。放課後は放課後デイサービスの車の迎えがあり、帰りのバス利用は数人。このサービス利用の現状で、家族の生活が出来上がっている。 ・送迎がないことを理由に、本人が希望する事業所に行けないケースがある。本人と家族の意向が違ったり、家族の思いが優先される場合もある。自力通所ができなくて希望する事業所に行けないのは「権利侵害」ではないか。 ・横浜市では通学・通所にガイドヘルパーを利用できる。(実際には利用上限が低く設定されていて、通学・通所と余暇支援の利用の区分けがない。マンパワーの不足の現状あり) ・学校や事業所へのアンケートで実態を把握したり、送迎問題の解決事例集作成を検討したい。 ・今後は、データ集めのためのアンケート作成を中心に論議する。(アンケートの内容、タイミング、その後の流れ、等)</p> <p>③働き方の変化について 【趣旨】 前年度の「障害者の変化への対応について」のワーキンググループの名称を「働き方の変化」へと変更した。前年度は、障害の変化への対応について検討していく中で、「生産活動」の充実に向けた取り組み、利用者の働き方の変化の捉え方について等の課題が挙がった。生産活動の取り組みは、利用者のニーズに即した考え方より、事業所の充実といった視点に偏り、ワーキングの趣旨からずれてしまう懸念がある為、今年度は「生産活動」への取り組みの議論は行わず、障害の状態変化により今までと同じ働き方が難しくなった時に、支援者としてその変化を受け入れる為にどのようなサービスや支援が必要かについて議論することにした。 状態変化により今までのように働けなくなった利用者に対して、慣れた同じ事業所でその人に合った新しい活動を提案していくのか、その人に合った新しい事業所への変更を進めていくのかといった課題についても、ワーキングを進める中で深掘り、変化があってもその人らしく過ごせる為のヒントを考えたい。 【内容】 6月:「働き方の変化」ワーキングの内容説明 7月:ワーキングメンバー決定・自己紹介とワーキングを選んだ理由、話したい内容について共有。障害の状態変化により今までと同じ働き方ができなくなった時に、それを支援者として受け入れる為にはどのような支援が必要かについて議論を進めていく事を共有。 8月:7月のワーキングでの働き方の変化の事例をもとにワーキングシートを作成。 (ワーキングシート内容) 事業所が提供した①どのような変化(本人・家族)に対して、②私たちに何ができるか、どのような支援を行うか(支援の変化)を共有する。次に③周囲の関係機関(家族・相談機関・病院等)とどのような連携を行うか話し合い、④対応した結果、解決したか、課題が残ったか、に進み、⑤残った課題は何か、⑥残った課題にどのような解決策を考えられるか、協議を進めていく。 ※8月のワーキングでは、②私たちに何ができるか、どのような支援を行うかについての意見交換を実施 10月:A「障害の変化」の⑤残った課題は何か、⑥残った課題に対してどのような解決策が考えられるかについて意見交換 11月:B「高齢化の変化」とC「障害・高齢化の変化」とE「家族の変化」の⑤・⑥について意見交換 12月:D「医療の変化」とF「本人の気持ち」の④・⑤・⑥についての意見交換 【まとめ】課題として 1. 医療と事業者が「つながる機会」 2. 介護保険制度に移行する際に本人が選べる状況を作る為の準備 3. 支援の先を見据えての本人・家族への説明(最賃特例など) 4. 家族などの環境が変化したときにも対応できる計画相談員との連携体制 5. 本人の気持ちに沿いつつも適切な支援ができる支援体制 【次年度に向けて】 1. 既存のサービスの中で解決できるものはないかを知るための勉強会 2. 他機関との連携の強化ための交流会開催</p>

しごと部会 令和5年度活動報告書

部会のテーマ 目的	「障害のある人・ない人の『働く』について」検討や意見交換を行い、障害のある人のニーズを中心とした地域課題を協議し課題改善に取り組み、それらの方策について検討することを目的とする。
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> 【市内事業所ガイドブック2023版の作成】 【西宮市福祉事業所合同説明会2023の開催】 【研修会】 【グループワークの実施】
達成できたこと・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市内福祉事業所ガイドブック2023年度版を作成した。 ・「福祉事業所合同説明会2023」は、来場者は約130名。前年度に比べ、30名ほど参加者が増加した。福祉サービスの事業種別ごとの説明を行うことで、今後の就労相談支援に発展したが、来場者がコロナ以前の規模まで戻ってきていない。来場者が、特別支援校の在校生の2年生の保護者が多く、3年次の実習に向けた情報収集を目的に来場していることがアンケートから推察できた。アンケート結果から、先を見据えた進路選択相談できる所を求める声があった。 ・グループワークは、前年度のテーマで論議を継承しつつ、部会員の希望から設定した。テーマごとに事例をあげたり、アンケートを行ったり、ワークシートを作成する等の工夫しながら協議を進めることができた。
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループワークの「まとめ」に記載。
市への提言	

令和5年度 地域生活移行連絡会 年間活動報告書

<p>会の テーマ</p>	<p>地域からの情報提供（各事業所の取り組みや体験を聞く、市からの情報等）やみやっこ会議（自立支援協議会）の他部会や連絡会と連携していく。また、様々な業種や関係者をメンバー又はゲストに迎え、時には勉強会や見学会も交えながら、ご本人が望む地域での生活の支えや地域移行の後押しをする手がかりをみつけていく。特に今年度は幸福で肉体的、精神的、社会的すべてにおいて満たされた状態を意識した“<u>Well-being</u>”をテーマとする。</p>
<p>協議内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域生活移行支援実現に向けた理念“<u>Well-being</u>”を参加者と共有 2. 勉強会（研修会）オープン連絡会 3. 他事業所・施設等の見学会 4. あんしん相談窓口連絡会とのコラボ企画 5. 今年度の振り返り 6. 次年度について 7. グループホーム連絡会の開催
<p>取り組んだ内容</p>	<p>【定例会/イベント等】※（ ）は、参加者数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域生活移行支援実践に向けた理念の確認 令和5年5月22日（月）定例会 （24名） 会員自己紹介、今年度の計画についての説明。 2. 【<u>Well-being</u> を実現する方法！】オープン連絡会 令和5年7月24日（月） （43名、内22名が連絡会以外の参加者） 事例発表：①居宅介護事業所こびに 村山さん ②（株）L.M.T 北野さん プレゼン大会「事業所自慢！」を実施 3. 見学会の実施 令和5年9月25日（月） ・ななくさ学園（18名）・むこがわ特別支援学校（18名）・尼崎武庫川園（16名） 4. あんしん相談窓口連絡会とのコラボ企画 令和5年11月27日（月）定例会 （17名） 「くらしの場調整会議」を実施。 事例をもとにグループワークで事例検討を実施。事例の中のご本人が地域移行できる方だと思えるか、そのために必要な情報は何か、どのようなサポートが必要か、それぞれの立場で何ができるのか等について考えた。 5. 今年度の振り返り 令和6年1月22日（月）定例会 （18名） 今年度の振り返りと今後について（感想や今後やりたいこと等）意見交換。 6. 次年度について 令和6年3月25日（月）定例会 （18名） グループワーク（困りごととその解消法 こんなのがあったらいいな～） 市への提言について

	<p>7. グループホーム連絡会</p> <p>①令和5年12月11日(月)(21名参加) GH連絡会を実施した。市内のGHに案内を出し15事業所が参加された。 GHの横のつながりを作る目的でまずは集まってもらった。今後も継続していく。</p> <p>②令和6年3月11日(月)(14名参加) 2回目のGH連絡会を実施。報酬改定等の話をした。9事業所が参加された。</p> <p>【事務局会議】 偶数月、第4月曜日 ※GH…グループホームの略称</p>
達成できたこと	<p>事業所の見学会、研修会(事例発表)、あんしん相談窓口連絡会とのコラボ企画など計画していたことは出来た。</p> <p>また念願であったグループホーム事業所が集める連絡会も2回開催することが出来、現状における各事業所の課題や新たな報酬改定情報などの共有ができた</p>
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に入所施設の利用者の地域移行が進みにくい現状がある。特に強度行動障害の方の支援ができるグループホームがなく地域移行に繋がらないケースもある。 今後、グループホーム連絡会を実施している中で、情報を共有しながら日常の支援についても研修などを実施して連携していくことも必要になってくると考える。 ・内容が当事者でなく、家族や支援者目線の傾向が強くなること ・当事者の参加が少ないこと
市への提言	<p>今年度は連絡会として提言はありませんが、昨年度、提言として「西宮市くらしのば調整会議」(仮称)の設置をあげました。</p> <p>内容としては西宮市が発起し、市内のグループホームや相談支援事業所等が集まり、制度についての説明や地域移行をすすめている事例の相談等について協議する場として、またグループホーム事業所の空き情報や虐待案件等の緊急受入れの検討等“地域移行”につながる具体的な面を設定することを目的とし、年に3~4回の開催を希望していました。</p> <p>次年度はこのような提言を提出するにあたり一緒に考えていただければと願っています。</p>
来年度に向けて	<p>“本人中心”という視点を忘れず、またご本人のために必要な“提言”を挙げていくための連絡会を目指す。</p>

以上

あんしん相談窓口連絡会 令和5年度 年間活動報告書

<p>部会のテーマ ・目的</p>	<p>『本人を中心につながり合う西宮の相談支援』を基本理念として、障害当事者の希望の実現や困りごとの解決などに向けた取り組みや施策への反映について、それぞれが把握している情報を共有し、協議していく。また、事例検討会や研修会を実施することで相談員のスキルアップに取り組み、西宮市の相談支援体制の強化につなげていく。</p>
<p>協議内容</p>	<p>【相談支援の仕組みや制度、課題等についての協議】 【相談支援専門員の資質の向上のための研修を実施】 【障害児相談支援の現状の共有】 【地域生活移行連絡会や居宅介護事業所との共同企画】</p>
<p>取り組んだ内容</p>	<p>【4月】あんしん相談窓口連絡会の目的や役割を確認 ・みやっこ会議及びあんしん相談窓口連絡会の目的や役割について説明。</p> <p>【5月】スキルアップ研修 ・相談面接のアセスメントに関する研修を実施した。カードを用いて2人1組になりテーマに沿って相手がカードに記載した内容（国名・職業等）を質問しながら当てていくゲーム形式。質問者と回答者を入れ替えて1回行い、相手を入れ替えて2回目を行った。実際の面接場面において、各々が振り返る機会になった。</p> <p>【6月】障害児相談支援について ・児童の計画相談について、西宮市ではセルフプランの方が全体で7割と増えている。しかし、障害児相談支援の指定はあるが児童の計画相談に取り組んでいる事業所が少ない現状があるため、課題と感じている。 ・実際に児童の計画を実施している未来センター、ほすび、北山学園からの報告や質疑応答などから障害児相談支援の現状等を知り、実際に関わっていくきっかけづくりとなった。</p> <p>【7月】こども未来センター機能についての説明。 ・こども未来センター安積課長より、未来センターの機能や役割についての説明。</p> <p>【8月】他連絡会との連携企画 ・地域生活移行連絡会との共同企画「地域移行ってどういうこと？」をテーマに協議。</p> <p>【9月】居宅介護事業所と相談支援事業所の交流会を実施 ・かめのすけ三宅氏より、事業所の人材確保、育成の仕組み、専門性が必要な実践、相談員との連携などについて話を頂く。 ・居宅介護事業所の現状や課題についてGWを通して、交流や共有企画を実施。市内の居宅介護事業所に参加していただき、それぞれの立場から話を聞くことができ、相談員との連携を深めていくきっかけができた。</p> <p>【10月】よろず相談 ・グループに別れ、日頃の相談員の聞きたいことを話し合い、連絡会への参加目的等を確認した。</p>

	<p>【11月】地域生活移行連絡会の「くらしの場調整会議」に参加</p> <p>【12月】研修企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規受付（インテーク）～アセスメント・本人中心支援会議までのプロセスをイメージしやすくするためにロールプレイを実施。実際にロールプレイを行うことで自分自身の振り返りや気づきを得るきっかけとなった。 <p>【1月】虐待防止研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員が虐待通報する際のロールプレイを実施。また、共生のまちづくり課増田さんより虐待防止についての研修を実施。虐待対応におけるポイントや、「相模原障害者殺傷事件」をもとに虐待防止に向けてのグループワークを実施した。 <p>【2月】今年度の振り返りと次年度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で振り返りを実施し、グループワークで今年度の振り返り、次年度やりたいことを話し合った。 <p>【3月】グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月グループワークのアンケート結果を元に①～⑤のグループワークを実施。 ①医療（訪看含む）②日常生活用具、補装具③事例検討④部会を超えて協議したいこと（住まい、しごと、こども、その他）⑤相談員の相談先
<p>達成できた事や効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、グループワークにて相談員同士で意見交換をすることで研修の内容を深めることができた。 ・相談員だけではなく、他連絡会や他職種と協働で協議を行うことで、様々な視点を持つことでより活発な意見交換となった。 ・みやっこ会議ホームページ上の特定相談支援及び障害児相談支援事業所一覧表の更新を随時行った。
<p>残された課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく計画相談を希望する本人や新規相談支援事業所へのフォロー体制の構築。 ・継続して、居宅介護事業所交流会にてヘルパー不足の課題が挙げられた。報酬単価の見直し（特に移動支援の「身体介護を伴わない」単価ではヘルパーを雇えないため利用を断ることもある）やヘルパーの定着しづらさの解消（障害の理解やスキルアップ）などが挙げられた。 ・連絡会としての機能の見直しや相談員のスキル向上のための研修会の実施。 ・児童の計画相談でセルフプランの方が増えている（7割）。
<p>市への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題としてヘルパーの不足が挙げられるが、事業所の努力だけでは難しい。市町村事業である移動支援の「身体介護を伴う・伴わない」の区分の撤廃を含めた報酬単価の見直しが必要。
<p>来年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・検討すべき課題を協議していけるような連絡会の仕組みづくり ・相談支援の仕組みや制度、課題等について協議する。また、相談支援専門員の資質向上を目指し、研修を実施。 ・みやっこ会議内での他部会他連絡会との協働で協議の場を持つ。

ほくぶ会 令和5年度活動報告書

部会のテーマ・目的	年齢や障がい、地区に関わらず北部地域で困っていることや課題の解決に向けた話し合いを行い、障がいのある人も含めた住民全体が住みやすい街づくりを目的として活動している。
協議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ほくぶ会3.0について 2 ほくぶ会勉強会の開催 3 北部地域ネットワーク会議の開催 4 ほくぶ会学ポッチャ!の開催 5 地域のちょっといいところ発見ツアーの実施 6 防災の取り組み
取り組んだ内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ほくぶ会3.0について <ol style="list-style-type: none"> (1) 目的・主旨 西宮市北部における福祉インフラの充実を目指し、ほくぶ会では幅広い福祉相談に対応できるように取り組みを進めている。研修やイベント、地域のいいところ発見ツアーを通して地域一体感を育てている。さらに、専門職の連携を深めるネットワーク会議を活用し、相談支援体制を整備している。 (2) コアメンバー制度 ほくぶ会会員全員が主役となり、自らが実現したいことを「この指とまれ方式」で実施している。LINE のオープンチャットを活用して取り組んでおり、メンバーからは、意見を言い出しにくいという声もあるが、メンバーからの提案により、今年度は防災イベントやいいところ発見ツアーが実現している。 (3) 部会の効率化 タスクの増加に対し、内容を厳選してツールを駆使し合理化している。オンライン会議により移動時間を削減し、作業を行う時間にあてた。会議は1時間以内に収め、質の低下なく効率的な議論を実施している。定例会では、議事後に雑談の時間を設け、新たな取り組みの模索やコアメンバーとの情報共有を行っている。Zoom や LINE オープンチャットの利用で情報共有や連絡を密にとることができている。 (4) 今後の展望 今年度の新たな取り組みは部会に根差し始めている。部会員が徐々に効果を体感できるようになっており、来年度は更なる飛躍を遂げることを目指している。また、地域での活動を重視し、障がい福祉だけにこだわらない取り組みの展開を計画している。 2 ほくぶ会勉強会の開催 <ol style="list-style-type: none"> (1) 開催内容 障がい当事者の自立ってなんだ??「いちばん落ち着く場所が生きる場所」 (2) 講師 茂上 裕太郎氏 (NPO 法人メインストリーム協会・みやっこ会議みんなの部会部会長) (3) 日時・場所 令和5年5月9日(火)午後1時から午後3時まで 西宮市立山口公民館 第2、3集会室 (4) 参加者 34名(地域住民、障がい当事者家族会、三田市基幹相談支援センター、地区社協、民生委員、地域事業所等) (5) 振り返り <ol style="list-style-type: none"> ア 自己決定の促進 障害のある人々が自分の生活において主体的に決定を行い、その選択が地域社会によって支持される体制の必要性が認識できた。 イ 支援の多様化と質の向上 依存先の多様化と質の向上を通じて、障がいのある人々が自立した生活を送るための持続可能な支援体系の構築が強調された。 ウ 支援者との対話の重要性

障がい当事者と支援者が協働し、対話を通じて当事者の意思を尊重することの重要性が浮き彫りになり、よりよい支援の実現につながることを認識できた。

(6) 今後の展望

今回は障がい者の理解及び知識を深める研修を行った。今後も部会員からは「親亡き後」の支援に関する研修の要望があがっている。そのような研修を実施するとともに、地域に密着したワークショップを行い、学習と交流が同時に進むよう努めていく。

3 北部地域ネットワーク会議の開催

(1) 日時・場所

令和5年6月20日(火)午後2時から午後4時まで

西宮市立山口公民館 第1集会室・オンラインを活用してのハイブリッド開催

(2) 参加者

23名(社会福祉協議会共生のまちづくり推進課・地域福祉課、生活支援課、山口・塩瀬保健福祉センター、高齢者あんしん窓口塩瀬アイビー、くらし相談センターつむぎ、子育てコンシェルジュ、山口地区ボランティアセンター、北部在宅療養相談支援センター、地域活動支援センターnecoris、障害者総合相談支援センターにしのみや北部窓口)

(3) 振り返り

重層的支援体制整備事業について市社協、行政の担当者から説明を受け、グループワークを実施した。今回はボランティアセンターも参加し、地域住民の意見を直接聞くことができたことが利点であったが、専門職主体の議題に対する参加することへのハードルの高さを指摘する声もあった。

(4) 今後の展望

ほくぶ会とのすみ分けを進める中で、専門職のネットワークを特化し西宮市北部でケースワークを含む連携を促進するための体制確保を目指す。

4 ほくぶ会学ポッチャ!の開催

(1) 開催内容

障がい当事者と一緒にはいつもとは違うポッチャを楽しむことができるといふ思いで企画し、パラアスリートの原田氏の指導を受け正式なルールを学び、参加者は競技を存分に楽しむことができていた。

(2) 講師

原田 浩明氏

(3) 日時・場所

令和5年12月10日(日)午後2時から午後5時まで

西宮市立山口ホール

(4) 参加者

約40名(障がい当事者、地域住民、地区社協・ボランティアセンター、地域事業所)

(5) 振り返りと今後の展望

ボランティアセンターや地区社協の参加もあり、トーナメントは大いに盛り上がった。一方でイベントの目的についてコアメンバー間の見解が統一されず、広報が不十分だった点は今後の改善が必要である。

5 地域のちょっといいところ発見ツアーの実施

(1) 開催内容

社会資源の未認知を改善するため、西宮市北部のいいところ発見ツアーを実施し、ほくぶ会の周知や社会資源の把握を行うことで、地域との連携を図ることができた。

(2) 日時

令和5年10月20日(金)から令和5年12月20日(水)まで

(3) 参加場所

山口地区: 上山口東ふれあい喫茶、青い空、つどい場あん、ふわっと

塩瀬地区: ほっこりカフェ、あいの家、おむすびころりん

(4) 振り返り

	<p>の認知度向上の必要性を感じた。</p> <p>(5) 今後の展望 今後は、社会資源間の関連性が一目でわかるマップの作成とほくぶ会の広報方法の見直しを検討する。さらに、今回参加した活動が高齢分野中心であった為、障がいのある人も利用しやすいアプローチをほくぶ会の新たな課題として取り組む。</p> <p>6 防災の取り組み</p> <p>(1) 開催内容 ア コミュニティコーピング イ 防災イベント</p> <p>(2) 講師(コミュニティコーピング) 西宮市地域防災支援課 村松係長・大野氏</p> <p>(3) 日時・場所 ア コミュニティコーピング 7月定例会時 塩瀬公民館 第3・4集会室 イ 防災イベント 令和6年1月28日(日)午前10時から午後3時まで つどい場ばんぶー</p> <p>(4) 参加者 障がい当事者、地域住民等</p> <p>(5) 振り返り ア コミュニティコーピング 西宮市南部と北部では想定される災害の種類に違いがあることから、ほくぶ会として防災についての協議を行っている。まずは部会員の災害知識の習得から取り組みを開始し、このコミュニティコーピングを通して地域住民や関係機関の防災意識の重要性を理解することができた。 イ 防災イベント ネットテラス流通、コープこうべ、NPO 法人とんとんと協力し、災害時の電気自動車利用、防災食、炊き出しブースを設けて地域住民に体験の場を提供した。防災グッズの展示や阪神淡路大震災当時の様子がわかるパネルを展示し、防災意識の周知を図った。</p> <p>(6) 今後の展望 次年度以降もほくぶ会として防災に関する取り組みは継続していく。今年度と同様、イベントを開催するか、積極的に防災の取り組みをしている地域に入り込んでいくのか等、方法については検討していく。</p>
達成できたこと・効果	<p>「ほくぶ会 3.0」をテーマに、新しいほくぶ会をスタートされる1年になりました。まずは、新たな取り組みをスタートさせる共通認識を持つことができました。コアメンバー制度により、部会員が地域や障害当事者の思いを実現すべく、新たな企画にも反映させることができました。それぞれの視点から地域や障害当事者の暮らしを考える機会になりました。また、部会運営の効率化や負担の一極集中を少しずつ回避できるな体制作りもスタートできました。</p>
残された課題	<p>新たな理念で取り組みを進める中で、戸惑いと理想と現実のギャップにも直面した1年でした。部会員の中からも戸惑いの声が上がリ、「やりたいことを言うのはちょっと…」となる場面も見られています。今後は、もっと活発に意見が出しやすい雰囲気作りをしていきたいと考えています。</p> <p>また取り組みを進める中で、イベントがいつも同じ人が集まる状態になっています。広報での作業の徹底や具体的に誰がどのように誰に向けて広報するのかなどミッションを具体化して成果に繋げていきたいと考えています。</p>
市への提言	<p>今後ほくぶ会は、「障害」の枠にこだわることなく、地域に根ざして住民が地域で自分らしく暮らせる活動を推進し、より地域の課題を様々な方と検討していきたいです。それが昨今の課題でもある「重層的支援体制整備事業」にも繋がる場所でもあると考えています。そのためにも、生活支援課だけに留まらず、行政の方にも必要な時に必要な連携をより、効率的にできるようにお力添えいただければと考えています。</p>